

告示	番号	49	慢性心疾患
	疾病名	単心房症	

単心房症

たんしんぼうしょう

概念・定義

心房中隔が欠損し、右心房と左心房の間に隔壁が存在しない先天性心疾患。発生段階で心房中隔の形成ができなかったものである。肺血流の著しい増加から、心不全症状が幼児期に、より重症に出現してくる。症状が急速に進行する例は、早期にパッチ縫着による心房中隔形成術を行う必要がある。

症状

肺血流の著しい増加から、心不全症状が幼児期に、より重症に出現してくる。自然予後は房室中隔欠損症と共通房室弁口の間である。チアノーゼは軽度ないし啼泣時にのみ認める時期から、常時認める時期まである。なお内臓心房錯位、奇静脈結合、共通房室弁口、一側房室弁閉鎖、心室置換、大血管転換、肺動脈狭窄、Ebstein 病などをしばしば伴うのでこれらの合併症の症状が前面に出現する

治療

症状が急速に進行する例は、早期にパッチ縫着による心房中隔形成術を行う必要がある。僧帽弁の亀裂や弁閉鎖不全を認める例では亀裂を直接縫合ないし、パッチで修繕し弁輪縫縮術や弁置換術を施行する必要がある。

なお内臓錯位の単心房症は、その他の合併する複雑心奇形の治療が必要となる。

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_42_51.html